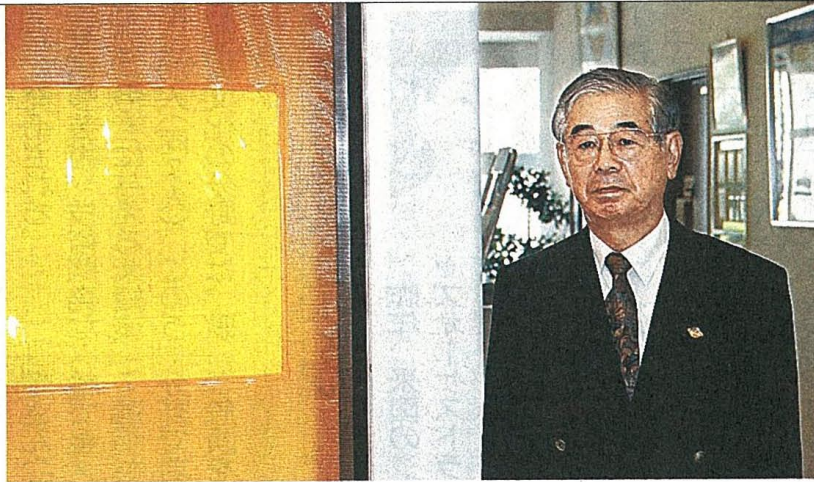


シートシャッター「門番」の横で、「受章は縁があった多くの人や社員のお陰」と話す小松昭夫さん。松江市乃木福富町



シャッター技術キラリ 藍綬褒章 小松さん

秒速3分の超高速シャッターや、上下水道の遠隔管理システムなど独創的な技術を開発した業績が評価された。

松江市八雲町(旧八雲村)出身。高校を卒業後、県内の農機具会社に入り、技術者となった。しかし会社は倒産。197

3年に弟と2人で、農業用ポンプの修理会社を創業した。約40年間で従業員93人、年商約34億円。の企業に育てた。

最初のヒット商品は、85年に開発した工場用のシャッター「門番」。県内の工場の防寒対策を任されたことを機に、ビニール製のシートを高速で巻き取る独自の方式を思い付いた。

自治体の上下水道を、パソコ

ンやスマートフォンで遠隔操作できるようにした装置「やくも水神」も主力商品だ。導入する際の費用の安さや使い勝手の良さから、45都道府県の約300市町村の約6300施設で採用されている。

韓国への旅行をきっかけに、同国と中国との交流に熱心なことでも知られている。20年近く続け、その間に研究所もつくった。両国に友人も多い。

小松社長は「『竹島』『尖閣諸島』の領土問題が、日本経済に打撃を与えている現状が気がかり。受章を励みに『災い転じて福となす』の心で、隣国との融和に、さらに力を尽くしたい」と話している。

(藤家秀一)